

緊急時の対応マニュアル (動物実験施設利用者用)

WEB 公開版

平成 27 年 3 月 5 日

信州大学ヒト環境科学研究支援センター
動物実験部門

【地震発生時の対応】

1) 初期対応（生命、安全確保の優先）

作業を中断し、身の安全を確保する。

2) 運転中の機器への対応

機器（X線照射器やオートクレーブ等）を運転している場合は緊急停止する。

3) 使用中の薬品への対応

発火危険性や有害危険性のある薬品を使用中の場合は直ちに容器のフタを閉めるなど安全措置を講じた後、落下しないよう床に置く等の対処をする。

4) ガス、電気、水道、酸素ボンベ等への対応

ガス・水道・電気を使用している場合は直ちに使用を中止する。

5) 実験中の動物への対応

動物実験を中止し、速やかにケージ内に収容するとともに、逸走動物がないことを確認する。手術中の動物の処置を完了できないと判断した場合は、速やかに安楽死を行う。

6) エレベーター使用時の対応

東側エレベーターに乗っているときに強い揺れを感じた場合は、直ちに停止ボタンを押して近くの階に停止させ、強制解除脱出を試みる。※西側エレベーターには停止ボタンはない。

強い揺れのため、強制停止したエレベーター内に閉じ込められた場合は、非常ボタンを押して外部と連絡を取り救援を求める。非常ボタンが機能しない場合は携帯電話等外部と連絡が取れる機器を持っていれば、動物実験施設事務室または日本エレベーター製造株式会社などに電話をかけ、救援を求める。

7) 飼育室/実験室からの脱出と動物の逃亡防止

飼育室/実験室または前室のドアが完全に閉まることを確認し、ドアを閉めてから脱出する。閉まらない場合は、人命を最優先し、可能であれば板で隙間を塞ぐなどの動物の逃亡防止策を講じる。

8) 脱出経路の確保

2階玄関のドアが強制開錠になっているか、確認する。

2階の玄関からの退避が難しい場合は、緊急避難経路（1階搬入口より屋外に退避する経路）

を確認し脱出経路を確保する。

※下記【緊急避難経路】を参照

9) 安否の連絡

所属部署の緊急連絡体制に従い安否連絡をする。

※余震の発生や2次災害発生等の危険な状態が続く場合は避難経路より避難し安全を確保してから安否の連絡をする。

10) 被害状況の確認と連絡

被害状況を確認し、被害があるようなら実験責任者及び施設教職員（内線 5391）に被害状況を連絡する。平日勤務時間外および休日の場合は、動物実験施設内に掲示の施設教職員の電話番号に連絡を取る。

11) 火災、停電の発生時の対応

下記【火災発生時の対応】および、【停電時の対応】を参照

12) 負傷者がいた場合

施設事務室および廊下に常備されている救急セットを用いて手当てをする。手当てだけでは不十分な場合、病院で治療を受けられるように信州大学医学部附属病院高度救命救急センター受付に連絡をと

り、手配する。

13) 逸走動物がいた場合

下記【逸走動物発見時の対応】を参照

14) その他、復旧作業

動物実験部門職員と連携し、事態が落ち着いた後、復旧作業を行う。

【火災発生時の対応】

- 1) 周りの人に火事が起きていること伝え、協力を要請し、水や消火器を用いて、初期消火活動を行う。
- 2) 自力での消火が無理だと判断したら、平日の場合は医学部庶務係（内線 5102、5136）、休日の場合は警務員室（内線 6110）に火事の状況と場所を連絡して、消防署に連絡してもらう。どちらにも繋がらない場合は、部門長に連絡した上で消防署に連絡する。
- 3) 身の安全を確保し、施設教職員に火災発生を旨を連絡する。
夜間休日等で施設教職員が不在の場合は、館内放送をかけ、施設内にいる人に避難するようにアナウンス後に、施設教職員に電話連絡する。
- 4) 消火活動が終了した後、動物の確認を行う。

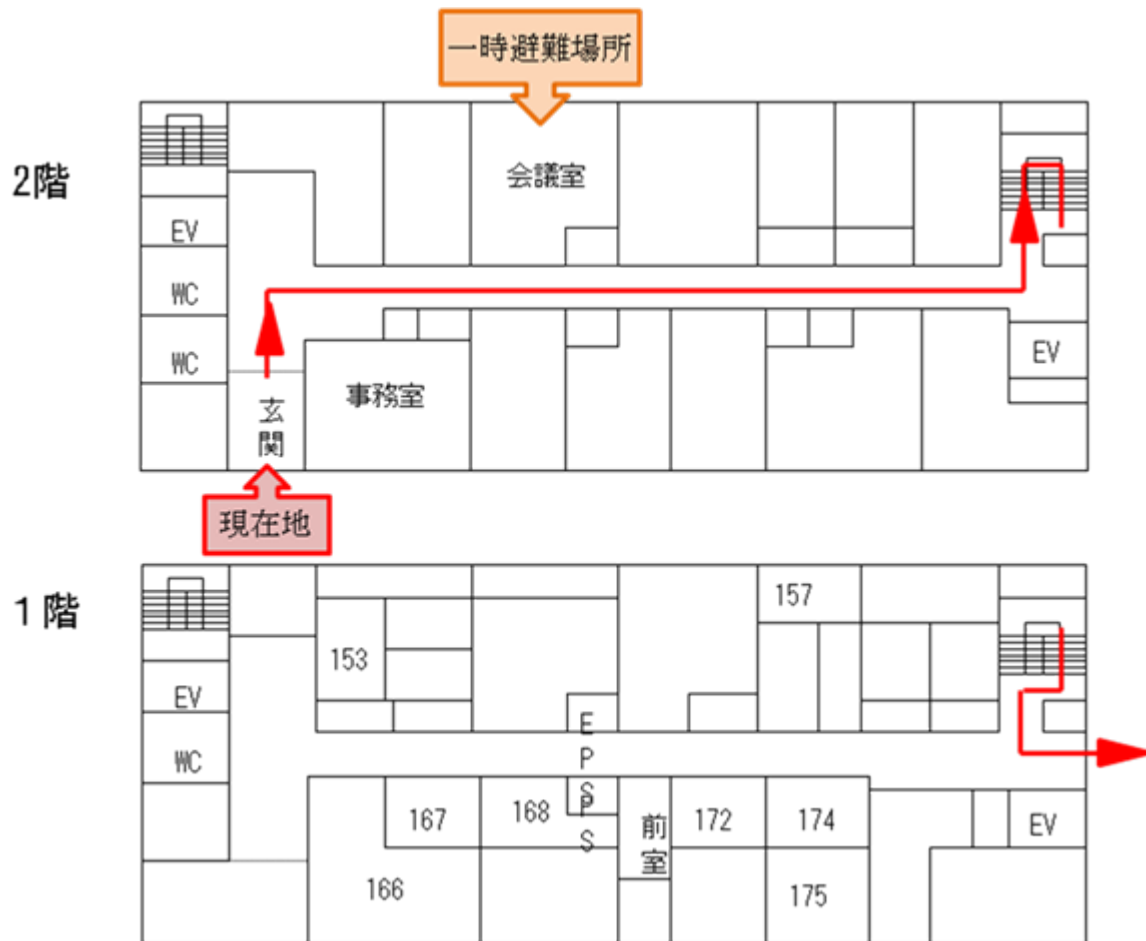
【停電発生時の対応】

- 1) 作業を中断し、身の安全を確保する。
- 2) 施設教職員に停電の旨を連絡する。

【緊急避難経路】

地震・火災等の緊急時は2階玄関の扉は開錠になる。

なお、玄関から出られない場合は、1階東側扉より避難する。

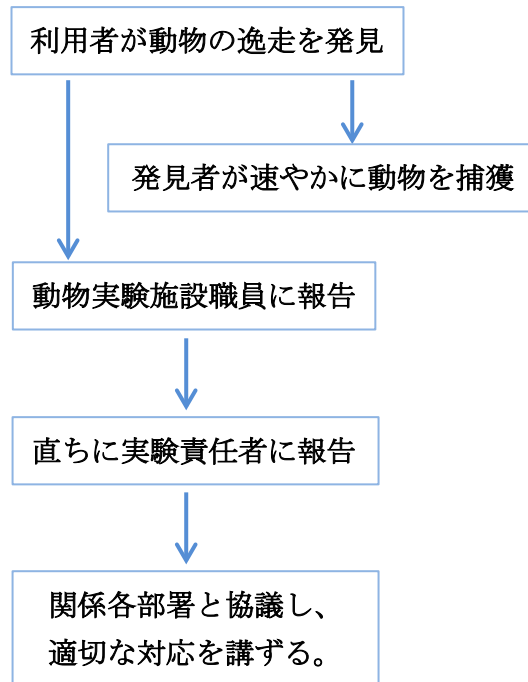


【逸走動物発見時の対応】

○マウス・ラット等(3～5階エリアで飼育中)の動物が逸走した場合

捕獲し、各飼育室の緊急用ケージに収容(飼育中のケージに戻さない)し、施設職員に報告する。

万が一、遺伝子改変動物が飼育室外に逸走した場合は、下図の様に対応し、その後の対応について関係各部署と協議を行い、適切な対応を講ずる。



○ブタ等の大動物が施設内で逃亡した場合

発見者一人に対応せず、動物実験施設 2 階事務室へ連絡する（夜間・休日の場合は動物実験部門教職員に電話する）。動物が興奮状態にあり利用者に危害を与える恐れがある場合は、応援者が来るまで逃亡区域外へ退避して身の安全を確保する。他区域や施設外への逃亡を防ぐために、逃亡区域の封鎖（立入制限）を行う。応援者を呼び、捕獲用手袋を着用して、捕獲器または麻酔を用いて、2人以上で捕獲作業をする。その他、捕獲に有効な道具として、モップやホウキ、軍手、飼料袋などがある。

* ブタ用捕獲器と刺叉、捕獲用手袋は中央廊下のパイプスペース（北側）に保管する。

○大動物の施設外への逸走が確認された場合

施設職員及び医学部庶務係に逸走の旨を電話連絡する。その後、庶務経由で警察に連絡が行き、必要に応じて捕獲要請が出る。